

上田 勉

遂に運命の出会いの時が来ました。恋人ではありません。1F（福島第一原子力発電所）との出会いです。10月22日、1Fと2Fを見学する機会が遂にやって来ました。

東京電力福島第一原子力発電所（1F（(エフ)））を見学して

東電の1F未来館で原発についての説明を聞いて、東電のバスで1Fへ向かいました。1Fの構内は放射線量が高い区域もあるので、外には出ないで、全てバスからの見学です。1～4号機の建屋を、直ぐ傍から見ることが出来ました。1号機は丁度囲っていた壁が取り払われていました。

建屋の傍には、超大型のクレーンが停まっています。放射線量は、バスの中でも最高で280 μ シーベルト/時（基準値は0.23 μ シーベルト/時）もありました。このような過酷な放射線量の中で、東電の社員や作業員は、献身的に廃炉の作業に従事しています。水素爆発事故を起こしたのは、1・2・3号機です。核燃料棒がメルトダウンしたために、廃炉の年数や費用については、未知数です。

放射能汚染の地下水を防ぐための凍結遮水壁は、陸側は100%完成、海側は95%完成しています。しかし、毎日150 m^3 の汚染水が流入しています。

東京電力福島第二原子力発電所（2F（(エフ)））を見学して

午後からは2Fを見学しました。石井所長自らが案内をしてくれました。2Fは地震の被害はありませんでしたが、東北電力の停電になりました。津波は4号機建屋の扉を破壊して浸水しました。唯一3号機の自家発電機だけが作動したために、幸いに事故には至りませんでした。

高台には、電源車やガスタービン発電機車、消防ポンプ車があって、非常時に備えています。土のうに寄る防潮堤が設置されています。（TP15.4mの高さ）

4号機の原子炉建屋に入ることが出来ました。もちろん、防護服とヘルメットの着用です。6階では、使用済み核燃料用のプールを見学しました。大きな長方形の水槽です。使用済み核燃料は潜っていて直接には見えません。使用済み核燃料の処分場が決まるまで、半永久的にここで冷却し続けなければなりません。

2階では、原子炉格納容器を見ることが出来ました。巨大な円形で、金属で覆われています。この中で核分裂反応が起こって、そのエネルギーで、タービンを回転させて発電します。

今回は特別に、地下1階の原子炉格納容器の真下を見学することが出来ました。様々な円筒形の筒があって、いくつものケーブルで結ばれています。原発の根幹の部分です。この構造を見て、私は原発の技術に圧倒されて、廃炉にすることがもったいないと思いました（深く反省）。石井所長以下、東電の担当者の方々は、原発の問題点も含めて隠さずに話をしてくれ、また、建屋の中を案内してくれました。残念ながら原発の写真を撮ることはできませんでした。

【福島第一原子力発電所（双葉町・大熊町）】



【福島第二原子力発電所（富岡町・楡葉町）】



【原発被災地を巡るツアー】（いわき駅集合・解散、費用約1万1千円）

（第1回）2月4日（土）～5日（日） 1泊2日

（第2回）2月25日（土）～26日（日） 1泊2日

参加希望者は 上田 まで メールか携帯で（☎090-5300-4664）